

<金標準、悪材料織り込むも 21500 円の抵抗を示す・・・>



(出所：オアシス)

中東情勢の混迷で米国とイランの代理戦争がサウジアラビアとフーシ派の攻撃に移行し、原油価格の高止まりを受け、中間選挙を見据えたトランプ大統領は形振り構わず、軽油価格の引き下げでEUとの同盟を無視するなど、ウクライナ問題でも混迷を深めている。

そのことは、逆にエネルギー価格の高止まりを推し進め、インフレの高止まりを示す動きに結びついている。特に弱い雇用統計を受け、10月開催のFOMCにおける利上げ確率は後退するも、長期金利とドル高の動きが金相場に重しとなっている。またフランスの政情不安や政府債務の増加も世界的な長期金利上昇を後押しする動きに繋がっている。ただ中国は外貨準備高の金保有を9月は23トン増と23ヵ月連続の購入を続けている。しかし世界有数の金購入国であるアゼルバイジャンは、米国債との関係から金保有を12トン売却実施している。ただ金標準は悪材料を織り込みながら21500円で下げ渋るなど、ここに来て下げ渋る値動きを見せており、買い戻しの値動きが期待されると思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが切り上げ、シグナルは下げ止まっている。RCIは短期が切り下げても、長期は切り上げだしている。特に日足が指数平滑移動平均線のレンジ内に入り、レンジ上限の22000円に向けた値動きの期待が高まると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 6,150,000 円(2026 年 10 月 13 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 91,520 円(2026 年 10 月 13 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>